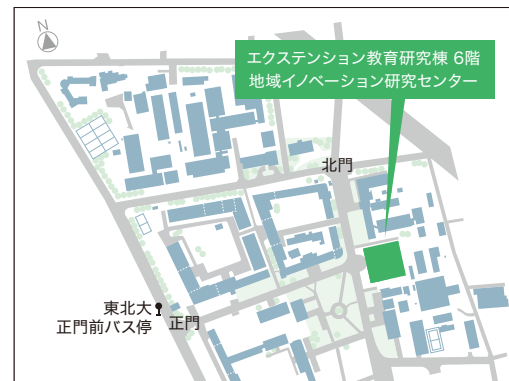


ACCESS



▼片平キャンパス構内図



バス

【仙台駅前11番のりば】(仙台市営バス)
霊屋橋経由八木山動物公園駅行
東北大正門前バス停下車(約10分、180円)

地下鉄東西線

「青葉通一番町」駅より徒歩8分(約600m)

タクシー

仙台駅西口から約10分

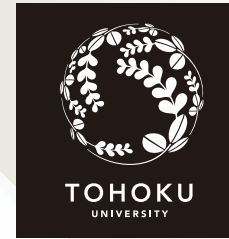


東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
エクステンション教育研究棟 6階

TEL:022-217-6265 FAX:022-217-6266
E-Mail:rirc@econ.tohoku.ac.jp

<http://rirc.econ.tohoku.ac.jp/>



Regional Innovation Research Center 2016

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター

Graduate School of
Economics and Management,
Tohoku University



MESSAGE

イノベーションを通して地域社会に インパクトのある貢献に向けて

2011年3月の東日本大震災から5年が経過し、これまでの政府による財政的支援に大きく依存してきた東北地域は、地方創生に向けて構造的な変革が求められています。中長期的な東北地域の発展のためには、新たな産業を育成し定着させるための経済・社会政策や地域企業による新たなビジネスモデルの革新が不可欠です。そのために、東北地域の「産・官・学・金」が連携して地域社会にインパクトのある政策とその実行が求められています。

地域イノベーション研究センターは、中長期的な視点から東北地域の経済・社会に関する調査研究を踏まえた様々な政策を提言するとともに、地域経済・社会をリードできる革新的な事業家である「地域イノベーションプロデューサー」とその支援者となる「地域イノベーションアドバイザー」を育成することによって、地域企業のイノベーションを促進し東北地域の発展に貢献したいと考えています。

地域イノベーション研究センター長
経済学研究科教授

藤本 雅彦

Contents

【地域の調査研究】	【地域の人材育成】	【広報活動】
地域産業復興調査研究プロジェクト 06	地域イノベーションプロデューサー塾 10 ~ 11	【RIRC運営体制】 17
震災復興への取り組み 07	地域イノベーションアドバイザー塾 12 ~ 13	
東北発水産業イノベーションプロジェクト 08 ~ 09	社会イノベーター人材育成事業 14	
	みやぎ県民大学開放講座 14	
	地域との連携協力 15	

東北の革新のために。
地域イノベーション研究センターの設立

設立の目的

地域イノベーション研究センターは、経済学研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことによって、東北地域のイノベーション能力の向上を図り、東北地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、実施および調整を行うことを目的とします。また、センターは本学および地域の企業、自治体、NPO 等の実務家たちと交流する場を提供することによって、地域の現実について強い関心と理解をもち地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材を育成します。

事業内容

- 地域イノベーションに関する研究の推進
- 地域イノベーションに関する教育の推進
- 地域イノベーションを牽引する指導者の人材
[地域プロデューサー]の育成
- 地域イノベーションに関する情報交流の推進
- 委託研究、寄附講座、共同研究の受入

活動実績

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
東北発水産業イノベーションプロジェクト												
地域イノベーションアドバイザー塾												
地域イノベーションプロデューサー塾												
地域産業復興調査研究プロジェクト												
地域発イノベーション調査研究プロジェクト												
農商工連携プロデューサー育成塾												
プロジェクト型教育研究プログラム												
インターンシッププログラム												

東日本大震災の発生、
震災復興への貢献

当センターでは、東日本大震災の直後に震災復興研究センターを立ち上げ、本学の復興アクションと歩調を合わせながら調査研究とイノベーション人材育成に取り組んできました。

調査研究については、本学および全国から100名を超える研究者を結集して「地域産業復興調査研究プロジェクト」を結成し、大きな被害を受けた地域産業の復興のための調査研究に取り組み、政策提言と情報発信を行ってきました。特に、被災地企業を対象とした大規模なアンケート調査を毎年実施し、産業および地域企業の復興状況を把握するとともに、地域の産業社会を再構築するための新たなモデルの構想や政策提言を行ってきました。また、「地域発イノベーション調査研究プロジェクト」を立ち上げ、地域企業のイノベーション事例を発掘し、イノベーションへの挑戦意識を高めてきました。

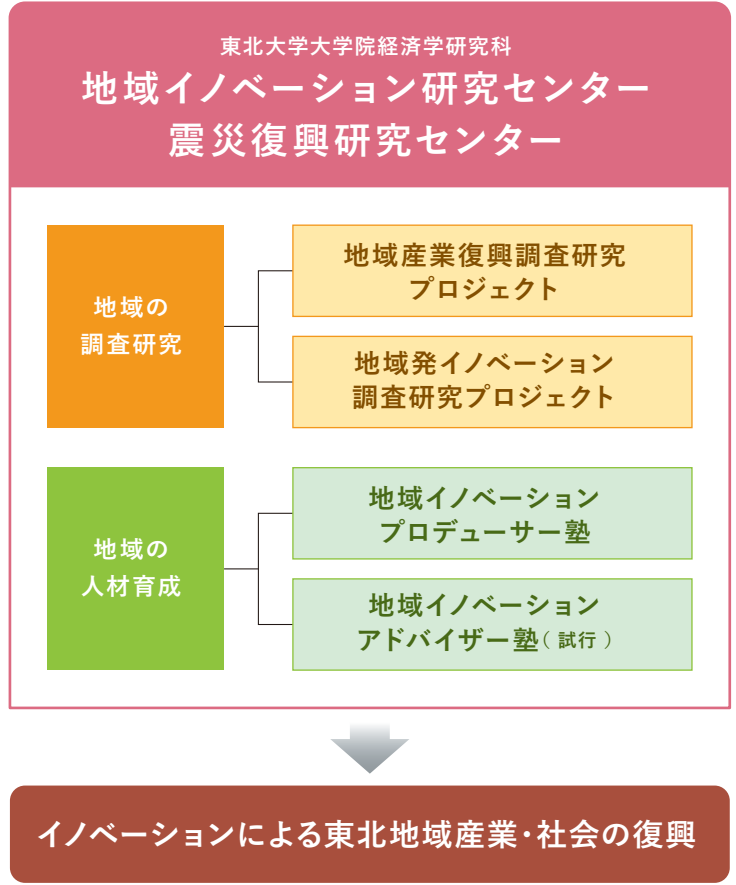
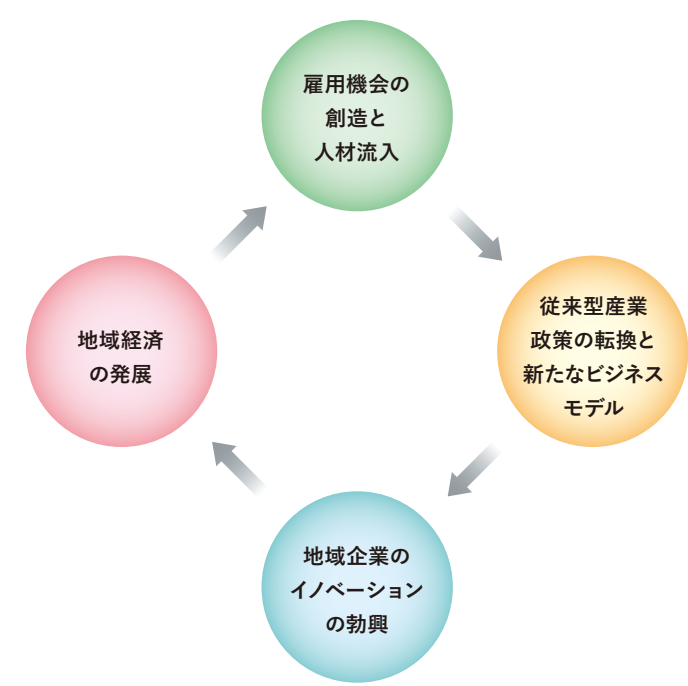
人材育成については、地域の中小企業の経営人材を対象に、イノベーターの育成、革新的な新事業の開発および事業化支援を一体的に行う「地域イノベーションプロデューサー塾」を開講し、地域企業のイノベーション能力の向上と新事業創出および雇用創出に取り組んできました。

本学の震災復興8大プロジェクト

- 災害科学国際研究推進プロジェクト
- 地域医療再構築プロジェクト
- 環境エネルギープロジェクト
- 情報通信再構築プロジェクト
- 東北マリンサイエンスプロジェクト
- 放射性物質汚染対策プロジェクト
- 復興産学連携推進プロジェクト
- 地域産業復興支援プロジェクト



〈震災復興の成長スパイラル〉

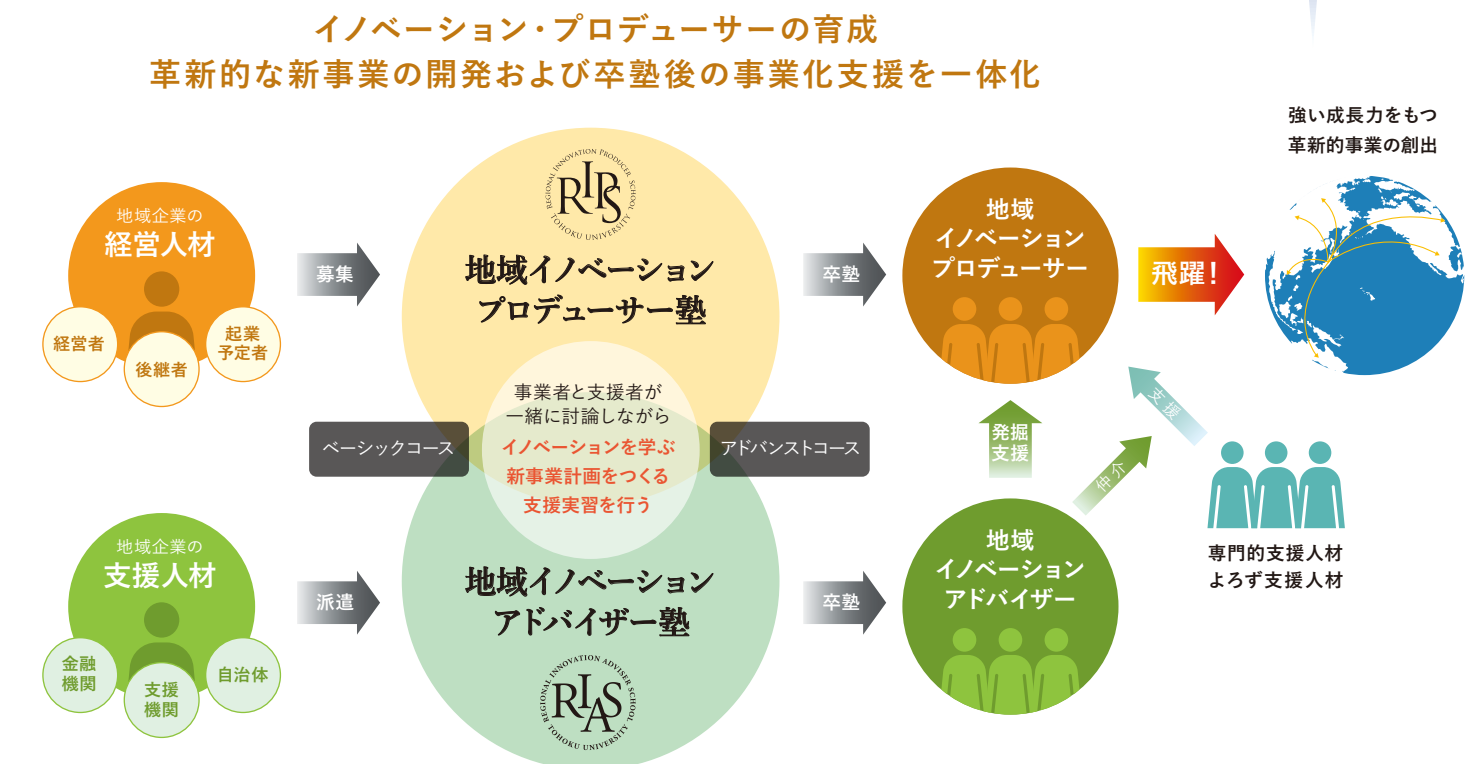


東北創生に向けて、
飛躍のための新しい挑戦

当センターは、これまでの震災復興のために取り組んできた諸事業の成果を踏まえて、今年度より新しい東北づくりに向けて「飛躍のための新しい挑戦」に取り組んでいきます。

調査研究については、地域社会にインパクトを与えるための調査研究事業として、今後5年間にわたって東北の水産業(特に水産加工業)のイノベーションに挑戦する「東北発水産業イノベーションプロジェクト」に取り組んでいきます。震災によって大きな打撃を受けた地域の水産業にとって、従来とは異なる水産業の在り方やビジネスモデルの構築などのイノベーションを推進することは喫緊の課題です。本プロジェクトの大きな特徴は、実際に地域水産業の変革にとって大きなインパクトを生み出すために実効性の高い戦略と行動を計画実行し、その効果を継続的に検証していくことです。

人材育成については、これまで取り組んできた「地域イノベーションプロデューサー塾(RIPS)」のほかに、地域の金融機関や支援機関等の職員を対象にして、地域企業のイノベーション活動を高度な目利き力と支援力を有して支援できる人材を育成するための「地域イノベーションアドバイザー塾(RIAS)」を開講します。そして、革新的な事業者と高度な目利き力のある支援者を効果的に育成するために、事業者と支援者が一緒に新事業開発の実習に参加して一緒に発想し討論し気づきを共有するといった、従来とは異なる新しい仕組みによる人材育成を行っていきます。



地域企業のイノベーションを促進する高度な目利き力と支援力を有する支援人材の育成

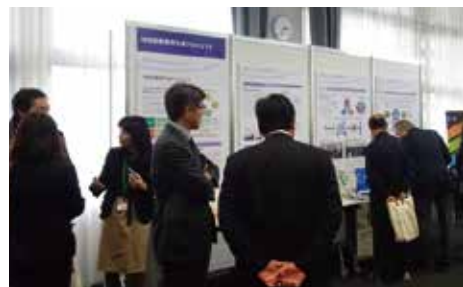
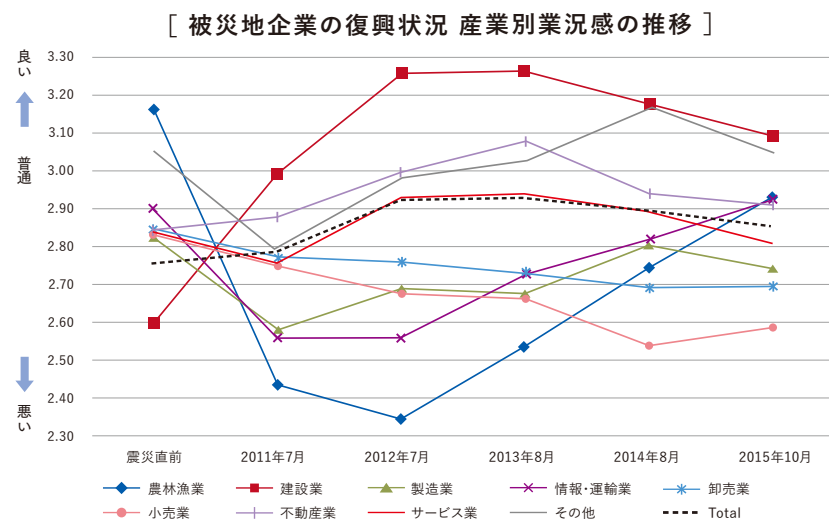
地域産業復興調査研究プロジェクト

本プロジェクトは、東日本大震災からの復興過程の現状と課題に対して学問的知見をもとに調査分析に取り組み、地域の産業・社会を再構築するための新たなモデルの構想や政策提言を行う等、被災地から情報発信することを目的としています。

プロジェクトでは、東北大学など仙台市に立地する大学の研究者を中心に、広く域外の大学や研究機関等から100名を超すメンバーの参加を得て、国の機関、地方自治体、東北地域の財界・シンクタンク、民間企業等との連携と協力のもと、2011年度から調査研究活動を開始し、新たな産業・社会の形成による東北地域の復興に向けて、様々な課題解決に取り組んでいます。

震災復興企業実態調査（企業アンケート調査）

本プロジェクトの中心的な調査研究として、被災地企業の復興実態を定量的に把握し、復興過程を中長期的に調査するための大規模なアンケート調査「震災復興企業実態調査」を2012年度より実施してきました。本アンケート調査は企業の復興状況について、雇用、設備、資金の視点から広域的かつ継続的に行っているという特長を有しており震災復興に関する貴重な調査研究といえます。

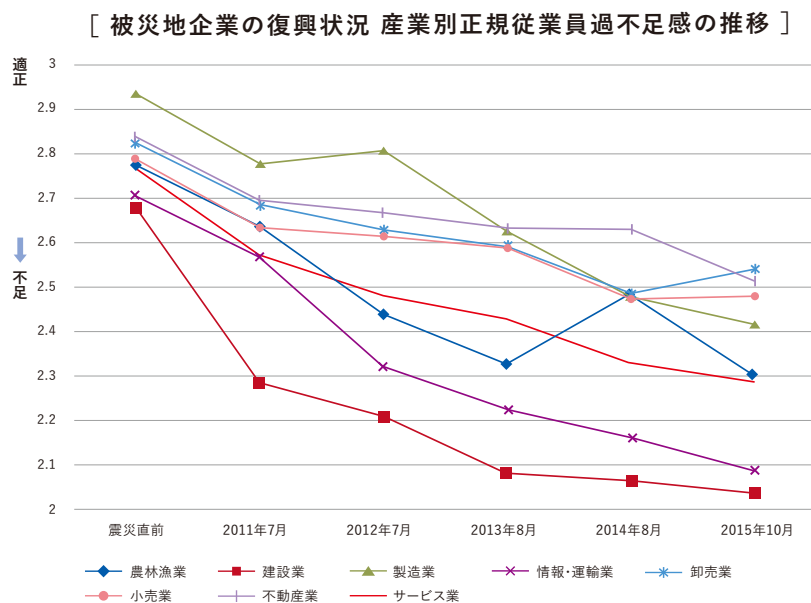


震災復興研究センター

震災復興研究センターは、震災直後の2011年4月に地域イノベーション研究センター内に設立され、本プロジェクトの推進をはじめ、学内組織である災害科学国際研究所や学外の諸団体・学協会等とも連携して震災復興に関する研究活動とその対外発信等に広く取り組んでいます。



震災復興研究センター長
経済学研究科教授 増田 聡



※「震災復興企業実態調査」より

震災復興への取り組み

東日本大震災復興研究

調査研究の成果を書籍として刊行し、震災復興の現状と提言を発信しています。



第5巻

東日本大震災復興研究 V
震災復興は東北をどう変えたか
震災前の構造的課題、震災から5年目の課題、これからの東北の新たな可能性

南北社（2016年3月）



第1巻

東日本大震災からの地域経済復興への提言
被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか

河北新報出版センター（2012年3月）

第2巻

東日本大震災復興研究 II
東北地域の産業・社会の復興と再生への提言
復興過程の現実に向き合い、地域の可能性を探る

河北新報出版センター（2013年3月）

第3巻

東日本大震災復興研究 III
震災復興政策の検証と新産業創出への提言
広域的かつ多様な課題を見据えながら「新たな地域モデル」を目指す

河北新報出版センター（2014年3月）

第4巻

東日本大震災復興研究 IV
新しいフェーズを迎える東北復興への提言
「創造的復興」は果たせるか、4年目のレビュー

南北社（2015年3月）

地域発イノベーション

調査研究の成果を書籍として刊行し、イノベーションへの挑戦意欲の高揚に資しています。



第5巻

地域発イノベーション V
東北から世界への挑戦

南北社（2016年1月）



第1巻

地域発イノベーション I
東北からの挑戦

河北新報出版センター（2012年3月）

第2巻

地域発イノベーション II
東北企業の資源発掘・展開・発展

河北新報出版センター（2013年3月）

第3巻

地域発イノベーション III
震災からの復興・東北の底力

河北新報出版センター（2014年2月）

第4巻

地域発イノベーション IV
常識への挑戦

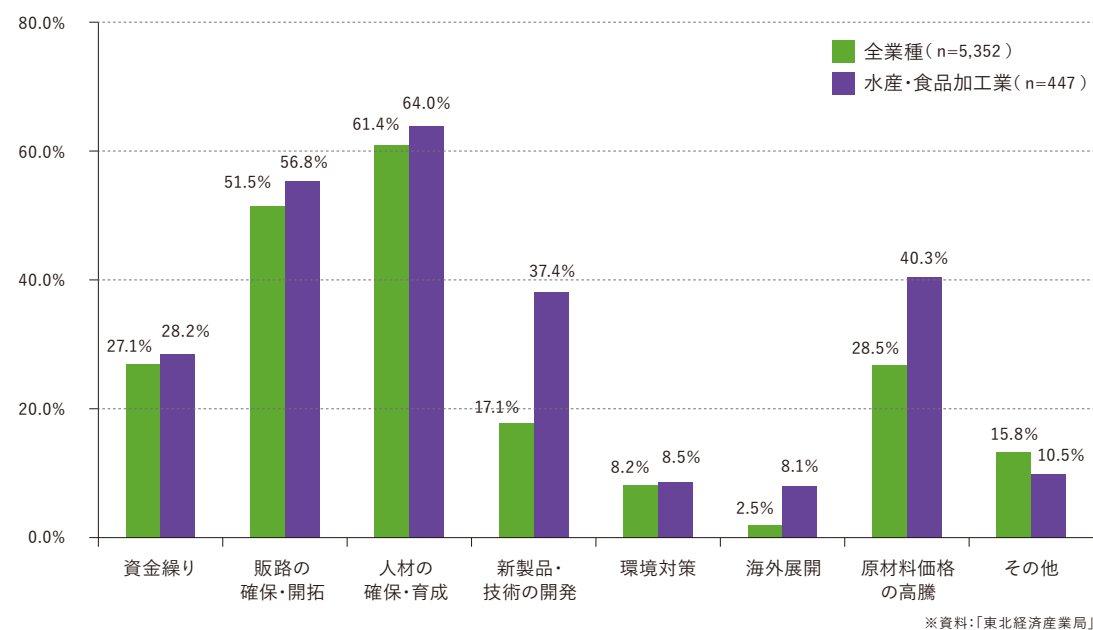
南北社（2015年2月）

地域社会にインパクトを与えるための調査研究 東北発水産業イノベーションプロジェクト

本プロジェクトは、地域社会に大きいインパクトを与えるための調査研究として、今年度から5年間にわたって東北の水産業(特に水産加工業)のイノベーションに取り組む事業です。東北の主要産業の一つである水産業は1990年代以降急速にその規模を縮小しており、震災によってさらに大きな打撃を受けました。そのため、従来とは異なる水産業の在り方やビジネスモデルの構築などのイノベーションを推進することが喫緊の課題となっています。本プロジェクトの大きな特徴は、実際に地域水産業の変革にとって大きなインパクトを生み出すために実効性の高い戦略と行動を計画実行し、その効果を継続的に検証していくことです。

初年度となる今年度は、東北地域の水産業に関する定量的および定性的な分析によって実態把握と重要課題を明らかにすることに取り組みます。そのために、東北経済産業局、宮城県、岩手県、東北活性化研究センター、みやぎ産業振興機構、宮城大学および民間企業などの研究者や実務家たちと共同で、研究会を編成して調査研究に取り組んでいきます。

〔水産・食品加工業の経営課題〕



- 全業種と水産・食品加工業とを比較すると、何れの経営課題でも水産・食品加工業で経営課題があると回答している割合が多くなっている。
- 特に、「新製品・技術の開発」、「原材料価格の高騰」、「販路の確保・開拓」や「海外展開」について、全業種よりも特に高い割合となっている。

プロジェクトの活動内容:2016年度～2020年度(5年間)

- ① 東北地域の水産業に関する定量的および定性的な分析による全体像の実態把握
- ② 海外も含む地域内外の優れたビジネスモデルや政策の調査分析
- ③ 東北地域での新たなビジネスモデルや政策の実現に向けた課題解決策の立案
- ④ 課題解決策のアクションと検証
- ⑤ 地域創生のモデルとなる方法論の構築



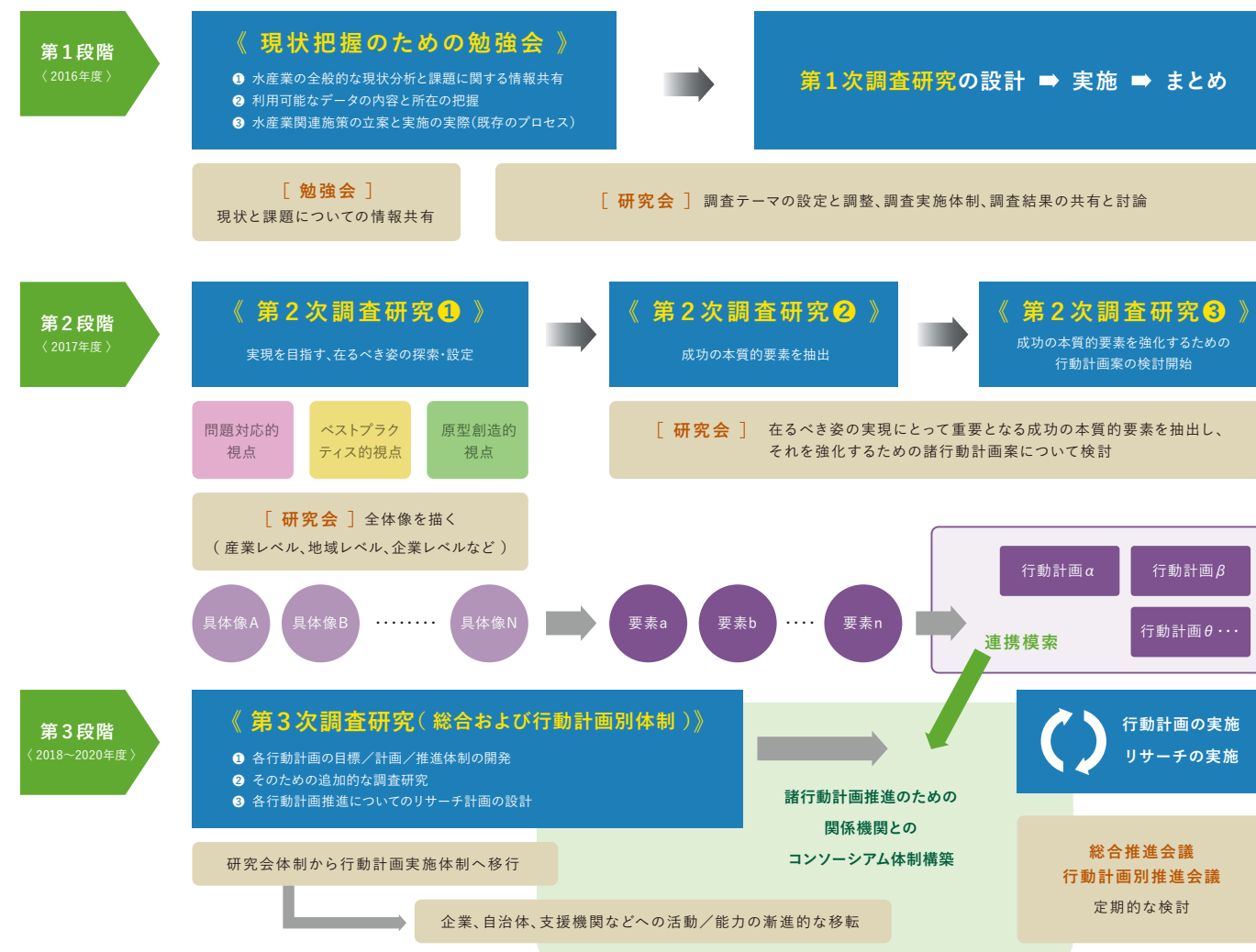
- 新しい高収益事業モデルの開発普及
- 製品開発力、技術力、生産性の向上
- イノベーション人材育成仕組みの開発実施
- これらを支える効果的な振興施策の提案



プロジェクト参加機関

所属機関(部門)
宮城県(農林水産部、経済商工観光部)
岩手県(商工労働観光部、沿岸広域振興局)
みやぎ産業振興機構
東北経済産業局
東北活性化研究センター(地域・産業振興部)
大和製罐株式会社
宮城大学食産業学部
東北大学地域イノベーション研究センター

東北発水産業イノベーションプロジェクト推進計画案





ここにしかない 卒業後の事業化支援まで見据えた 人材育成・新事業創出プログラム

地域イノベーションプロデューサー塾の大きな特長、それは、革新的なプロデューサーを育成するとともに、高い市場創造力をもつ新事業のプランづくりを同時に行うことです。

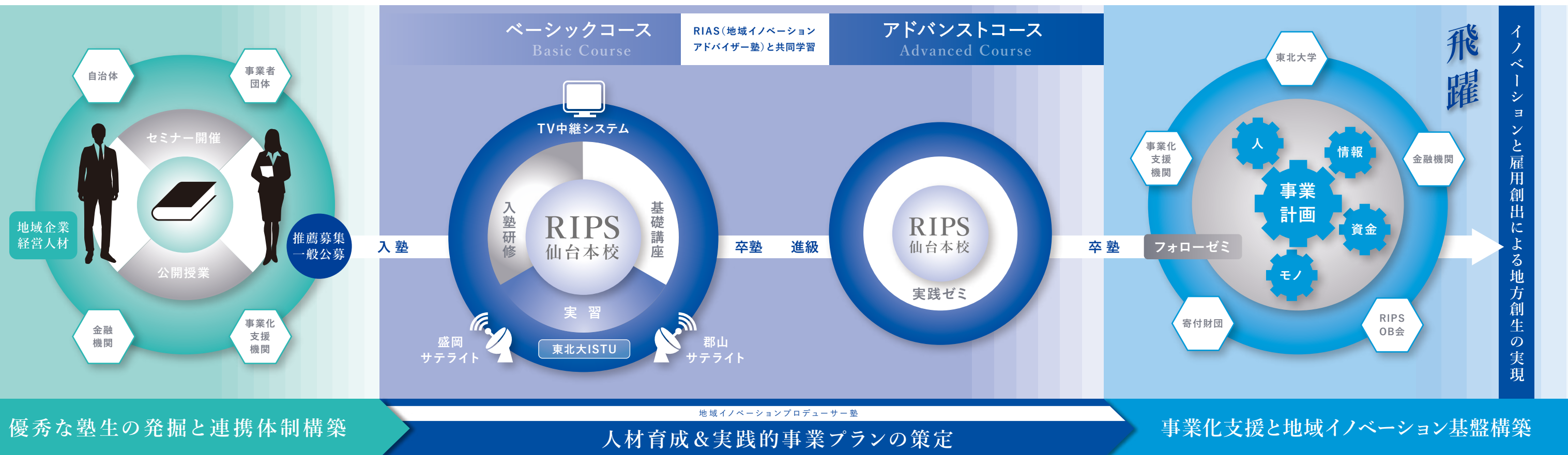
卒業後3年以内の立ち上げを目指して優秀な事業プランを選定し、事業化サポートまでを行うという、まさに“東北発イノベーションの産室”なのです。

東北から世界へと飛躍しましょう、RIPSとともに！



カリキュラムの構成

ベーシックコース Basic Course	入塾研修	本塾での学習成果を高めるために、目的意識を明確にし、学び方および問題解決やプレゼンテーションのスキルを学習する。
	基礎講座	講義と事例を通じて、イノベーションと新事業開発に欠かせない知識、考え方、視点を学習する。
	実習	事業研究を通じて高い市場創造力をもつ新事業のイメージを鮮明にし、演習を通じて実際に魅力的な新事業アイデアの創造を試みる。
アドバンストコース Advanced Course	実践ゼミ	事業開発コーチ陣による少人数指導のもと、事業開発プロセスを段階的に進めて事業プランの完成を目指す。また、イノベーション支援者たちと一緒に対話しながら、構想-討論-反省のサイクルを上昇的に形成していく。



優秀な塾生の発掘と連携体制構築

人材育成&実践的事業プランの策定

事業化支援と地域イノベーション基盤構築

- 経営セミナー** 東北各地で他機関と連携してRIPSを紹介する経営セミナーを開催します。
- 公開授業** RIPSの一部の授業を一般に公開します。
- 入塾者募集** 一般公募とともに、東北各地の事業者団体や金融機関、自治体等と連携して推薦募集を実施します。

イノベーションの基礎を学び新事業コンセプトを開発します

- カリキュラム**
 - イノベーションプロデューサーとしての基礎能力養成
 - 新事業開発の事業アイデア探索
- TV中継システム** 仙台本校とサテライト(盛岡・郡山)とのリアルタイム映像授業を行います。
- 学習支援** 東北大学インターネットスクール(ISTU)を活用した欠席対策および復習支援を行います。

RIASと共同で実習を行い緊密な交流を図ります

RIAS
[地域イノベーションアドバイザー塾]

革新的な事業計画を集中的に開発します

- カリキュラム** 事業計画書の作成
- 指導体制** 事業開発コーチ陣による少人数指導
- RIAS生の支援** 複数のRIAS生からの支援を受けながら開発を進めます。

東北地域の金融機関、公的支援機関、自治体の職員を対象にして、イノベーションに挑戦する地域企業を発掘しその新事業開発を支援する、高度な目利き力と支援力を有する支援人材を育成する塾です。

フォローゼミ 重点支援対象事業を選定して3年間集中的に支援します。

地域イノベーションを牽引する基盤として成長するRIPS OB会

研究会活動による卒業後のフォローアップと相互研鑽会員どうしの事業連携および新事業開発

- 経験デザイン研究会(EDS)
- 事業実践研究会(BPS)





地域企業のイノベーションを促進する 高度な目利き力と支援力を有する 支援人材を育成します

- 事業者と一緒に学びながら、真に革新的な事業について理解を深めます
- 実際の事業開発プロセスを観察しながら、支援実習を行います
- 事業者たちと討論しながら、支援者として何をすべきかを考えていきます
- 産学官連携による地域イノベーションシステムの土台を築き上げていきます



	ベーシックコース Basic Course	アドバンストコース Advanced Course
育成する人材像	● 地域産業発展に対する情熱と志をもち、革新的事業を目利きできる人材 ● イノベーションに挑戦する事業者を発掘し、事業計画の開発とその実現を支援できる人材	● 革新的事業計画の開発支援、支援事業に合った支援メニューの編成およびコーディネーションを行うことのできる、高度な支援力を有する人材
開講期間 授業時間帯	3カ月(5月～7月) ● 隔週火曜日 19:00～21:00 ● 隔週土曜日 10:00～17:20	3カ月(9月～11月) ● 隔週土曜日 13:00～17:00
授業を受ける場所	仙台本校(東北大)、盛岡サテライト、郡山サテライト ※開講日ごとに授業が受けられる場所が変わります。	仙台本校(東北大)
カリキュラム	入塾研修	本塾での学習成果を高めるために、目的意識を明確にし、学び方および問題解決やプレゼンテーションのスキルを学習する。
	講義	講義と事例を通じて、イノベーションと新事業開発に欠かせない知識、考え方、視点を学習する。
	実習	事業研究を通じて高い市場創造力をもつ新事業のイメージを鮮明にし、演習を通じて実際に新事業アイデアの創造を試みる。
	実践ゼミ	RIPSの事業者たちと一緒に事業開発について実践による学習を行う。事業者たちが取り組む実際の事業開発プロセスに関わりながら、様々な支援課題を見つけ、自らその課題を解いて事業者たちにフィードバックし討論する形で、支援実習を行う。
	個人研究	各自「イノベーション支援に関する研究計画書」に基づいて塾生自らが研究を行い、その成果をレポートとしてまとめる。



RIPS(地域イノベーションプロデューサー塾)と
共同で実習を行い、緊密な交流を図ります

地域イノベーションプロデューサー塾は、地域企業の事業者を
対象にして、イノベーションへの挑戦意欲および構想力と実行
力をもつイノベーションプロデューサーを育成すると同時に、革
新的な事業プランの開発を目指すための塾です。

- 革新的事業の目利き力
- 事業計画づくりの支援
- 専門家とのマッチング
- 事業者の目線で支援
- 情報力とコミュニケーション力
- 地域産業発展への志と情熱



RIAS OB会のビジョン

- 産学官連携による地域イノベーション基盤の構築
- 卒塾後のフォローアップと継続学習
- RIPS OB会と連携してイノベーション事業の創出と支援

社会イノベーター人材育成事業

本事業は、東北地域において社会的課題を解決する事業を構想し運営していくリーダーとなる「社会イノベーター」の育成・支援に取り組むもので、経済同友会が東北の人々や経済の元気を取り戻すために実施している復興支援プロジェクト(IPPO IPPO NIPPONプロジェクト)からの寄付金でまかなわれています。当センターでは、東北各地で地域再生のために活躍しているリーダーたちに、第一線の社会イノベーターから手法やマインドを学ぶ場を設け、地域づくりの考え方や実行能力の向上を支援します。また、一般の方にも本事業を開放し、社会イノベーターを目指す人材を輩出していきます。

社会起業家のトップランナーをお招きし、社会課題解決の方法を学び、そして、私たちが「新しい社会を創る方法」を共に考える機会です。



みやぎ県民大学開放講座

本事業は宮城県からの委託を受けて実施する一般市民を対象とした開放講座です。当センターでは、地域中小企業のイノベーション能力を向上させることに焦点をおき、これまで「地域企業イノベーションの切り口」、「地域企業の飛躍を考える40の質問」、「管理者の役割とリーダーシップ」、「東日本大震災からの復興：現状と課題」、「デザイン発想からのイノベーション」などをテーマにして開放講座を実施してきました。

《2016年度予定》

「革新的ビジネスの設計と実践」

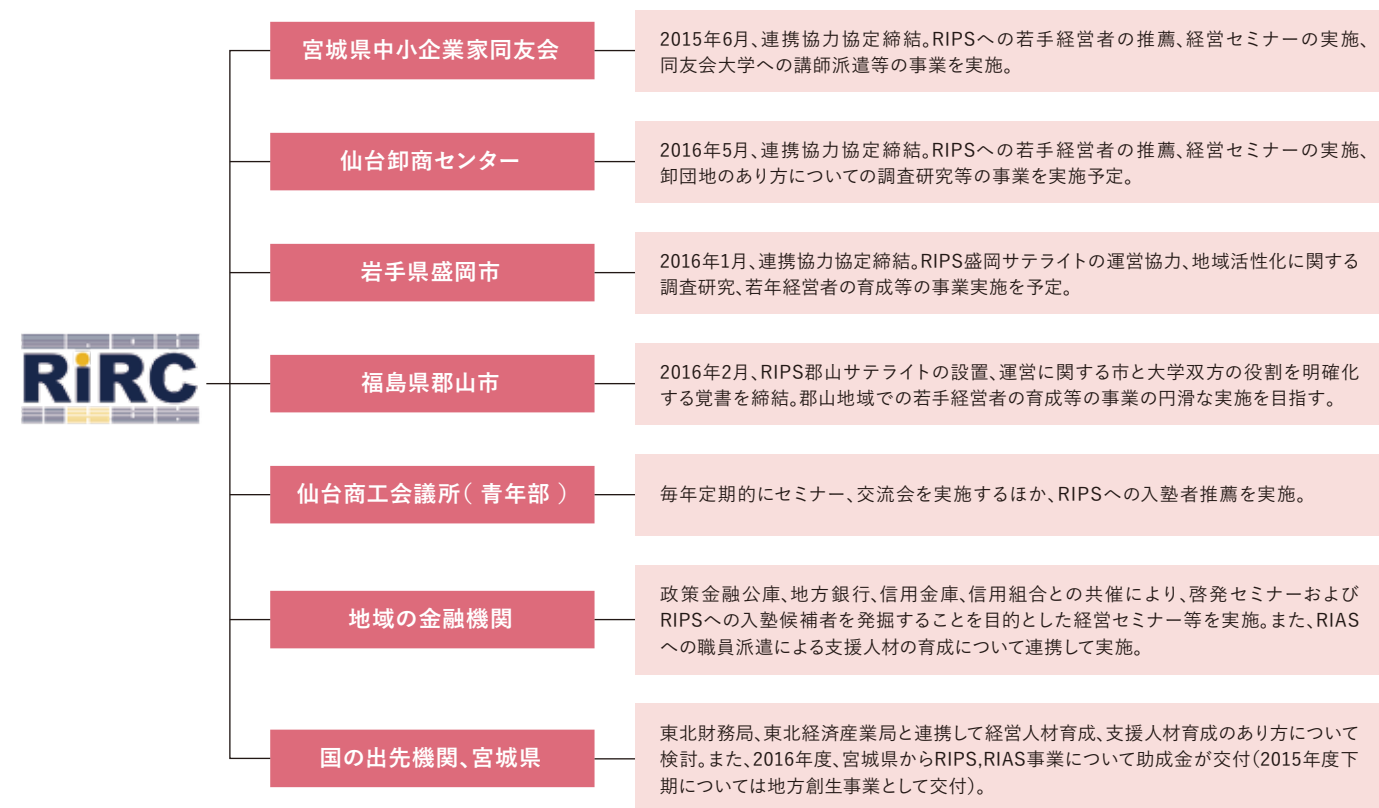
革新的ビジネスを設計するための方法とそれを実践するための手法を学びます。

講 師		
	(第1・2回) 東北大学大学院経済学研究科 特任教授 板垣良直	
	(第3・4回) 東北大学大学院経済学研究科 教授 藤本雅彦	
第1回	11月10日(木) 18:30～20:30	価値設計とビジネスコンセプト I
第2回	11月17日(木) 18:30～20:30	価値設計とビジネスコンセプト II
第3回	11月24日(木) 18:30～20:30	実践的人材マネジメント I
第4回	12月1日(木) 18:30～20:30	実践的人材マネジメント II



地域との連携協力

当センターは、東北地域における人材育成および産業発展に関する調査研究を力強く推進していくために、地域の多くの自治体、研究機関、事業者団体、金融機関等と連携協力関係を構築しています。特に、2015年度には東北地域におけるイノベーション創出と新たな雇用機会の創出にとって喫緊の課題となっている革新的事業家と高度な目利き力・支援力を有する支援者を一体的に育成していくための地域協力基盤として「東北地域イノベーション推進コンソーシアム」を立ち上げ、その事務局を運営しています。



東北地域イノベーション推進コンソーシアム



2015年8月4日、「東北地域イノベーション推進コンソーシアム」が設立されました。(会長：藤本雅彦、東北大学教授)本コンソーシアムは、地域の革新的経営人材と地域中小企業経営者に伴走して支援する人材を一体的に育成する事業(RIPS,RIAS事業)を効果的に行うため、地域の産学金官が連携して、いわば地域ぐるみで応援する体制を構築するために設立されたものです。今後、年2回程度の会議を行い、人材育成事業の評価、東北地域企業のイノベーションのあり方等について検討していきます。

いしのまきイノベーション企業家塾との連携



当センターでは、2014年5月に石巻信用金庫が開講した「いしのまきイノベーション企業家塾」に対して、その構想段階から運営体制やカリキュラムの開発などについて協力させていただくとともに、講師を派遣するなどの緊密な連携を行っています。この塾の卒業生にはRIPSへの推薦入塾が認められます。今後、当センターでは、イノベーションを実現し地域経済の発展に貢献する経営人材を育成しようとする全国の多くの地域に対して積極的な協力支援を行っていきます。

第3回国連防災世界会議 2015仙台 パブリックフォーラム

【東北大学復興シンポジウム】

東北大学からのメッセージ ～震災の教訓を未来に紡ぐ～

2015年3月15日に開催された東北大学復興シンポジウムでは、東北大学全体として取り組んでいる8つの重点プロジェクトを中心に、「東北の復興から日本の新生を目指して」とのテーマでパネルディスカッションが行われました。当センターからは、重点プロジェクトの一つである「地域産業復興支援プロジェクト」の取り組みについて紹介しました。

【東北地域における産業・社会の復興】

2015年3月16日にシンポジウム「東北地域における産業・社会の復興」を開催しました。国内外から多数の参加者があり、地域イノベーション研究センターの震災復興に関する調査研究の成果と人材育成の取り組みについて報告を行いました。



東北大学 イノベーションフェア2015

2015年12月9日に開催された「東北大学イノベーションフェア2015」のブース展示「復興アクション」にて、「地域産業復興支援プロジェクト『震災復興に向けた東北地域産業の調査研究と革新的プロデューサーの育成』」のブース出展を行いました。当日は、地域内外の企業関係者、研究者等が多数訪れました。



地域発 イノベーション・カフェ

公益財団法人東北活性化研究センターとともに、東北地域の挑戦者たちによってなされた優れたイノベーション事例を発掘し、それらのプロジェクトがいかに始まったのか、挑戦者たちがそのプロセスでどのような困難に直面しどう乗り越えたのかなど、イノベーションの軌跡を明らかにしてきました。地域発イノベーション・カフェでは、その事例をご紹介します。



秋田 次郎 経済学研究科長

地域イノベーション研究センター（RIRC） 運営委員会

◎ 藤 本 雅 彦	RIRCセンター長 経済学研究科 教授
増 田 聡	震災復興研究センター長 経済学研究科 教授
権 奇 哲	RIRC総括プロデューサー 経済学研究科 教授
大 滝 精 一	経済学研究科 教授
柴 田 友 厚	経済学研究科 教授
佐々木伯朗	経済学研究科 教授
福 嶋 路	経済学研究科 教授
西 出 優 子	経済学研究科 准教授
古 谷 豊	経済学研究科 准教授
高 浦 康 有	経済学研究科 准教授
金 熙 珍	経済学研究科 准教授

◎：委員長

【運営スタッフ】



藤本 雅彦

RIRCセンター長
地域イノベーションプロデューサー塾・塾長
地域イノベーションアドバイザー塾・塾長
経済学研究科・教授



増田 聡

震災復興研究センター・センター長
経済学研究科・教授



権 奇哲

RIRC総括プロデューサー
地域の人材育成事業統括
経済学研究科・教授



富澤 辰治

RIRC地域連携室長
地域イノベーションプロデューサー塾・
プロモーター



板垣 良直

RIRC特任教授
地域イノベーションプロデューサー塾・
実践ゼミ統括



池谷 昌之

RIRC特任教授(客員)
地域イノベーションプロデューサー塾・
プロモーター/実践ゼミファシリテーター



渡辺 一馬

RIRC特任准教授(客員)
社会イノベーター人材育成事業統括



竹井 智宏

RIRC特任准教授(客員)
起業家ネットワーク担当



倉田 美子

RIRC事務室長



阿部 俊子

RIRC事務スタッフ